

# 「昭和ケア会議」～議論のまとめと提案～

テーマ	課題	必要な人材・取組	事例	進捗
要支援者名簿	<p>昭和地区だけで約500人の要支援者がいる。そのうち278人が名簿提供に同意していて、支援を必要としている。</p> <p>要支援者名簿をもらっても、民生委員だけでは災害時に全員を支援するのは不可能・・・</p> <p>しかしながら、要支援者一人一人に対して、誰がどう支援するかを決めたり、避難訓練をしたりということは昭和のどの町内も行っていない。災害時、どうになってしまうのか大変不安。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援者を入れた防災訓練を実施する町内会や防災任意団体</li> <li>要支援者一人一人に対する、避難支援者の選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川西市、別府市 (ハートネットTV)</li> <li>江東区 大島六丁目 団地</li> <li>西尾市 緑町住宅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会石川さんが同じ階段の10世帯に、支援してくれるよう声がけした。</li> </ul>
生活支援	<p>昭和には柿の木が植えてある家がたくさんあるが、高齢化により高いところの柿を取るのが危なくてできない世帯も増えている。これは一例に過ぎないが、ちょっとした生活の困りごと(電球交換、ごみ出し、買い物、移動、見守りなども)を手伝ってくれる、助けてくれる人がいたら。</p>	<p>ちょっとした困りごとを手伝ってくれる人、「お助け隊」のような生活支援グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知立市牛田町「さわやかアシスト」</li> <li>南医療生協「おたがいさま班」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「とくし丸」の巡回開始</li> <li>「高齢者等を支える地域づくり協定」の締結(新聞販売店等民間業者による見守り活動)</li> </ul>
認知症対策	<p>認知症の方の徘徊等が地域でも増えている。どのように対応すべきか、地域の方が理解を深めておく必要がある。(昭和ケア会議では事例研究を続けてきた)</p> <p>また、当事者や家族の話を聞く機会を作ったり、認知症カフェの活性化等も必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和ケア会議、事例研究の参加者拡大</li> <li>既存の認知症カフェの活性化や、地域での認知症カフェの開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立川市大山団地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーターズ テップアップ講座、支援ボランティアの養成</li> </ul>
既存活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールガード担い手不足</li> <li>ウォーキング兼防犯パトロール</li> <li>高齢者サロン担い手、参加者</li> <li>団地集会所、もやいこハウス等施設の利活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和☆PRプロジェクトへの参加</li> <li>ガイドブックの作成、周知</li> <li>地域リポーターの増員</li> <li>各活動担い手の発掘</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市若林地区「シニア世代のための生活便利ブック」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドブックの作成、SNSでの発信、人材の発掘(昭和PRプロジェクト)</li> </ul>

↑

- ・ここを「昭和未来会議」に提案していき、人材を募る
- ・住民・市・生活支援コーディネーターが継続的に人材・取組発掘に努めていく